

## 園長日記 第34回 令和4年度附属認定こども園第3回合同研修会

宮崎学園短期大学両附属認定こども園では、4月から「子どもが主体となる教育・保育」に取り組んでいます。先生方は、子どもたちの豊かな育ちのために教育・保育環境を日々工夫されています。

第3回の研修では、日南市にあるあがた幼稚園園長の伊豆元精一先生をお招きし、「こどもまんなかの教育・保育を考える！」と題して講演をいただきました。「日本の未来を・・・が救う」の問いから始まったご講演、先生はそこに「芋」と入れられ、子どもたちと芋との微笑ましい沢山のエピソードを語ってくださいました。子どもたちのワクワクした気持ちが子どもたちを育てていると話されました。伊豆元先生は、北欧を視察されての学びを通して、新たな挑戦をされたとのことでした。素晴らしい園庭環境の中で、四季折々に子どもたちが生き生きと遊びを繰り返している姿に、目頭が熱くなりました。素晴らしい育ちだなーと思いました。また、人口減少に対しては、「子どもたちが少なくなる」とマイナスのイメージを持ちますが、「子どもたちが幸せで、豊かな幼児期を過ごせば、必ず子どもは増えます」と先生は話され、幼児教育・保育が重要な役割を担っていることを再認識しました。

子どもたちの姿、伊豆元先生のお話しを通して、とても豊かな気持ちになりました。良い時間をありがとうございました。

一部の講演を終え、二部では、両園の先生方による発表が行われました。今年度は、年間を通してテーマを決めて保育を行っています。今回は、春のテーマ「自然のいろ」に続き、夏のテーマ「ひなたとひかげ」の発表が行われました。0歳児から5歳児までが、「ひなたとひかげ」をテーマに、自然、光、影、熱、屈折等、様々な体験からのこどもたちの気づきが写真や子どもたちのつぶやきとして紹介されました。子どもたちが種々の問いを持ちながら、事物と関わる姿の発表を聞きながら「主体的・対話的で深い学びの基盤」を作るための体験に繋がったと実感しました。



令和4年度 附属認定こども園第3回合同研修会



伊豆元先生のご講演（手には芋）



屋根に上った女の子



始めの挨拶



全景



発表0歳児



発表3歳児



発表5歳児



国際大 村上学長のアドバイス

今回は、宮崎学園短期大学と宮崎国際大学の保育者養成校の先生方も多数ご参加いただき、大変嬉しく思いました。

日々の実践と振り返りを通して、これからも教育・保育の質を高めていきたいと思えます。そのための第一歩は、子どもたち一人ひとりを大切にし、子どもたちを理解したいという思いから出発することだと再認識しました。

保護者の皆さまにも、日々の子どもたちの素晴らしい姿をこれまで以上にお届け出来ればと思っております。これからも頑張っまいります。